



発行所
財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 関山 巧
定価 1部44円
題字 井戸 知事

火は見てる
あなたは離れる
その時を

迎 春

灘黒岩水仙郷
撮影場所 洲本市由良町

元気で安全・安心な兵庫をめざして



兵庫県知事

井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。
平成二〇年の節目の年が明けました。この二〇年間、わが国は、豊かさとは何かを問い続け、成長から成熟への構造転換を模索してきたと言えるでしょう。

その歩みの中、兵庫は、大震災からの創造的復興をめざし、懸命に努力してきました。
コミュニティ重視の地域活動や共助で築く安全安心の地域づくり。
成長産業やものづくり産業が牽引する兵庫産業の再生。

自然の偉大さを学び共生をめざす環境優先の社会づくり。
地域個性や資源が光る交流の高まり。
いずれも成熟社会の針路を示すものです。

これからは、復興の過程で芽生えたこれらの取組みを礎として、新しい兵庫づくり、兵庫の再生

新年のあいさつ



財団法人 兵庫県消防協会
会長 関山 巧

あけましておめでとうございます。
県下の消防団員をはじめ、消防関係者の皆様には、ご家族ともどもお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様方には、日々訓練を重ねられ、災害時には危険に身を挺し、地域住民の生命と暮らしを守るため献身的にご尽力されておられますことに対し、心より敬意を表します。

さて、今年には自治体消防発足六〇年目の節目の年にあたります。近年各地で大規模災害が多発しており、現場に目をやれば火災による高齢者被害が取りざたされておりますが、我々消防団は、常に地域防災の中核として、地域の安全確保に重要な役割を果たしており、今後もさらなる貢献が期

に向けてスタートを切ります。

そのためにも、復旧復興を担ってきた財政状況を改革し、持続可能な構造にしていきたいと思います。

成熟社会の主役は、県民の皆さんです。一人ひとりの主体的な活動が、新しい兵庫をつくり出します。

今春、日本最大のお菓子の祭典「姫路菓子博二〇〇八」が開かれます。環境大臣会合も開催され、国内外から多くの人々が訪れます。今こそ、兵庫らしさに磨きをかけ、内外に発信するチャンスです。

参画と協力を基本姿勢に、人、産業、地域、社会の元気づくり、県民生活の質の向上、交流人口の拡大、家庭と地域の再構築の四つの視点で、「元気で安全・安心な兵庫」をめざしましょう。

こうのとりの 翔る大空 夢のせて
再生兵庫へ ともに歩まん

待されているところであります。

こういった中、住民の期待と信頼に応えるためにも、時代に即した消防団づくりに積極的に取り組んでいかなければならない時代になってきていると感じているところであります。皆様方には、どうか消防団の充実強化にお一人層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、今年には県の操法大会が開催される年でもあります。消防活動の基本となる操法技術の向上と消防団活動のPRの機会としてとらえ、お取り組みいただければと存じます。

最後になりましたが、県下各消防団、消防本部のますますのご発展と皆様方のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。

謹んで新春のご挨拶を申し上げます

財団法人
兵庫県消防協会
平成二〇年元旦
総裁 井戸敏三

副総裁 齋藤富雄

五百蔵俊彦

中瀬憲一

会長 関山巧

副会長 前田民雄

岸谷義雄

後藤政義

梶原哲

小林正幸

望月昌次

片岡稔

坂下邦男

米山昇

生越敏雄

吉田秀貴

春名玄貴

年頭の辞



消防庁長官
荒木 慶司

平成二〇年の新春を迎えるに当たり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭のごあいさつを申し上げますとともに、昼夜を問わず消防防災活動に御尽力いただいていることに対して心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

二三年三月七日に消防組織法が施行され、市町村消防の原則に基づく自治体消防として発足して以来、間もなく六〇周年を迎えます。この間、関係各位のたゆまぬ御尽力の積み重ねにより、制度、体制、技術等各般にわたる着実な発展を遂げ、国際的にみましても高い水準を有しております。国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たしております。

このような中、大規模災害や事故、テロ災害等に揺るがない社会を構築し、国民の安心・安全を維持向上させていくためには、全国的、広域的な見地から消防防災・危機管理体制の充実を図るとともに、行政と住民が一体となって地域の消防防災力を強化していく必要があります。

緊急消防援助隊の充実と機動力の強化や被災地情報の収集能力の向上、特別高度救助隊・高度救助隊や国民保護体制の充実強化等、大規模災害やテロ災害に対する備えの強化に取り組んでおります。

皆様方におかれましては、我が国の消防の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層の御支援と御協力をいただきますようお願い申し上げます。



新春のご挨拶



財団法人 日本消防協会
会長 片山 虎之助

平成二〇年の輝かしい新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

全国の消防団員、消防職員の皆様が、常日頃、地域の安心・安全を守るため、日夜献身的なご尽力をされていることに対し、心から敬意を表し、深く感謝申

上げてます。さて、本年三月に、自治体消防は六〇周年を迎えます。この間、我が国の消防は、関係者のたゆまぬ努力の積み重ねにより大きな発展を遂げ、今や地域住民に最も身近な防災機関として、国民から多大の信頼と期待を寄せられております。今日までの歩みに改めて思いを致し、国民の安全安心の確保のために一層の努力を傾注する決意を新たにしているところであります。

今日、災害や事故は複雑多様化の傾向を強めており、住宅火災による焼死が続発しているほか、台風、集中豪雨による風水害が多発し、さらにガス爆発などの特殊な事故が生じております。また、昨年は三月に能登半島地震、七月に新潟県中越沖地震が発生しており、ひきつづく大

規模地震の発生が懸念されております。また、国民保護法に基づく役割も新たに加わっております。このような中で消防活動には一層の充実が期待されておりますことから、日本消防協会では、新たに消防ポンプのほか救助資機材等を組み込んだ消防団向多機能型車両を交付することといたしました。

消防団は、地域防災の中核です。これからの防災体制の強化のためには、常備消防の充実はもとよりですが、消防団が要となりながら、婦人(女性)防火クラブ、企業、各種団体、さらには自主防災組織などを含む一般住民の皆さんが、一体となった総合的な地域防災力を充実させる必要があります。

消防団員の減少傾向はまだ消えてはいませんが、全体としての減少数、減少率は低下しており、県単位、消防団単位では増加しているところもみられます。ひきつづき、関係者とその協力連携のもとに団員確保に全力を傾けてまいりたいと考えております。

このことも関連しますが、本年五月には、世界初の消防団国際会議を開催します。世界主要国の義勇消防関係者が東京で一堂に会し、義勇消防隊員の確保など共通する課題について情報・意見の交換を行います。

また、自治体消防六〇周年に協賛する意味も込めて、本年一〇月の第二一回全国消防操法大会は、東京ビッグサイトで、消防操法の全国大会としてはもとより、全国消防団員の交流や一般国民に対する消防団の周知の機会としても大きな効果があるようにしたいと考えております。

北から南から

「元気の源は花とホルモン」

佐用町消防団

宮本武蔵が十三歳のとき、佐用町の宿場町平福で初勝負を挑み、一刀のもとに相手を倒したと言われています。剣豪武蔵の初決闘の地佐用町は、武蔵生誕の地と言われる岡山県大原町と隣接する歴史ある町です。

その町を守り続けている佐用町消防団は、旧佐用郡四町(佐用町・上月町・南光町・三日月町)の消防団が統合され、平成十八年四月一日新たに発足しました。分団数が五五、団員数一、一五五名、消防車両六九台を有する大所帯となりましたが、旧町ごとに支団長(専任副団長)を配し管轄エリアを分割することにより、効率性を高めています。

本年度は、各支団で操法支団大会を実施しました。各大会での上位入賞隊は、平成二〇年五月に行う町操法大会へ出場することとなっています。今後は町大会、さらには西播磨・県大会に向けて訓練に励んでいきます。

佐用町には、そんな団員を温かく見守る「花」があります。毎年桜の開花時期に咲く「かたくりの花」。全国的にも珍重と表されるユリ科に属するこの花は町内の数カ所所産し、ピンク色の可憐な花を咲かせます。

夏には全体で約一五〇万本の「ひまわり」が開花し、見る者に勇気と感動を与えてくれます。七月下旬に開催する「ひまわり祭り」には遠方からもたくさんのお客が訪れ、国道が交通渋滞を起こすほどの人気となっています。昨年十一月には、色づ

く山々の紅葉をバックに、黄色のじゅうたんを敷き詰めたような「秋のひまわり」約一万五千本が開花しました。また、早秋には鮮やかな白や赤色の「そばの花」も一面の田畑で開花し、見る者を癒してくれます。

もう一つの元気の源は「ホルモン焼きうどん」です。「ホルモン焼きうどん」は、ホルモンと野菜を鉄板でいため、うどんにだし汁を加えて焼き上げます。そして特製のタレに付けて食べますが、店ごとに微妙に違うこのタレがまた格別のうま味となっています。佐用町では、現在専門店が五軒以上あり、ここ数年前から「佐用名物」として人気を博しています。

四季を彩る美しい「花」に見守られ、「ホルモン焼きうどん」を食べた元気な佐用町消防団員は、これからも地域の安全も守っていきます。



ホルモン焼きうどん

地域に根ざした 消防団を目指して

西脇市消防団

小畑 真吾



私の在籍する西脇市消防団第三分団野村部は、約二、三〇〇世帯の住宅と商業地域を中心に

東西に林野が位置する市内でも有数の広範囲を所管しています。

また、加古川・杉原川・野間川の三河川の合流地点に位置し、水防活動も重要な役割の一つとなっています。

私が入団した平成十六年は、台風二三号により西脇市に未曾有の水害を引き起こした年でした。

私たちは、降り続く雨と増える川の水位を目の当たりにしながら土のうを積み、住民に避難を呼び掛けながら市内を駆け巡りました。

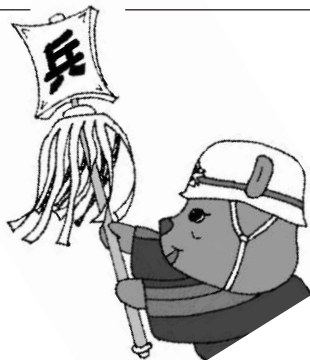
台風の去った後、泥にまみれ

た街は新入団員だった私には、想像を絶するものでしたが、同時に驚いたのは、消防団員が団結することで復旧へと向かっていく街の姿でした。

部員二〇名が、一つの目的のために取り組むことで、大きな力に変わるのだということを実感した瞬間でもありました。

地域のコミュニケーションが希薄になったといわれる現代ですが、消防団には、年齢を越えた絆があり「地域のために」という意識が、今もなお、受け継がれています。

これからも自分の生まれ育った街は自分たちで守るという意識を大切に「地域に根ざした消防団」を目指していきたいと思っています。



われら若手消防団員<5>

消防団に入団して

神戸市水上消防団
みなと分団

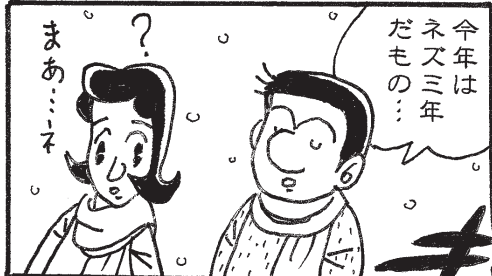
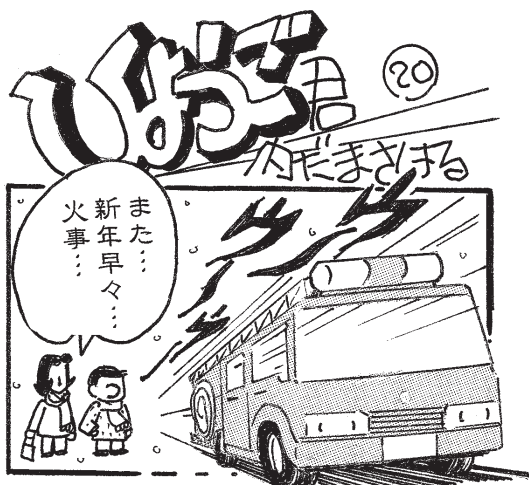
土佐 雄平



神戸市水上消防団みなと分団は、神戸市の沖合に浮かぶ人工島「ポートアイランド」のコンテナターミナルやライナーパース、それに付随する倉庫といった地域を管轄しており、他の分団とは違い、管内に住宅は一切無いという特色がある分団です。

わたしは平成十六年四月に入団しました。以来業務の合間をぬって、ポンプの取り扱い訓練やロープ結索や訓練礼式といっ

た基礎訓練に一ヶ月に一回以上参加するように頑張っています。入団のきっかけは、わたしが所属する(株)上組の上からの勧めでした。もともと周りの先輩、同僚といった人たちが水上消防団に所属しており、消防団というものが非常に身近にありました。周りはいつも顔を合わせている先輩、同僚ですし、必要以上で固くならず訓練に取り組むことができます。



地区通信

「地域防災のリーダー」

川辺郡支部

猪名川町は阪神間の北東端にあり、東は大阪府豊能郡、南は川西市、西は宝塚市と三田市にそれぞれ接し、北は篠山市に隣接しています。総面積は九〇、四一kmにおよび、東西に八km、南北に十八km、周囲延長は七十一kmに達します。また猪名川をはさみ南北に帯状に平坦部が続き、東西の両側は激しい山岳部を形成する町域の八〇%以上が県立自然公園です。猪名川町は、その昔、東大寺大仏鑄造の際に、銅を献じたと伝えられている多田銀銅山を中心にひらけ、その名が示すように多田源氏ゆかりの地として武家文化の栄えた所でもあります。

近世を迎えますと、徳川幕府は、直領として代官所を設け、

周囲の三郡七二村を銀山付村として支配しました。明治四年の廃藩置県によって、この地域は、兵庫県、大阪府に分割され、明治三二年、町村制の施行により、中谷村、六瀬村が誕生しました。さらに、昭和三〇年四月一〇日、町村合併促進法に基づき、中谷村、六瀬村が合併し、猪名川町が誕生しました。

猪名川町消防団は、昭和十四年四月に発足した川辺郡中谷村と六瀬村の各消防団が昭和三〇年の両村の合併により統合されたもので、現在も当時のままの三分団で構成されていますが、全国的に問題化している少子高齢化が進み、団員数五〇〇人を



地域合同で実施する防災訓練

維持するのが非常に難しくなっています。また多くの団員が町外で勤めていることから、昼間における消防団の消防力不足が町においても深刻な問題となっています。

そこで「自分たちのまちは自分たちで守る」ことを目的に、町内の各自治会で結成されている自主防災組織との連携を強化すべく、すべての各小学校区で行われている地域が合同で実施する防災訓練に指導的役割で参加しています。一人でも多くの地域住民に防火・防災の大切さを知ってもらうために、消防団員が自主防災組織を牽引し、それにより地域の防災力がアップする事を目指しています。訓練では住民とのコミュニケーションをとり、いざというときに誰でも消火活動がスムーズに行えるように消防団員が消火栓や消火器の取り扱いを指導し更には効果的な消火方法などを参加者の一人ひとりに丁寧にアドバイスしています。

こうした活動を通じ、地域防災のリーダーとして、地域防災力の高揚を図り頼られる消防団員を目指して活動を続けていく所存です。



住民とのコミュニケーション

「先輩の足跡の継承を」

淡路市消防団副団長
向内 良夫



淡路市は、平成十七年四月に津名郡五町（津名町、淡路町、北淡町、一宮町、東浦町）が合併して人口五万余人の市となりました。消防団も一、九一八名の体制で活動しており、平成七年の阪神淡路大震災で人命救助の大切さを改めて経験した団員が数多く残っております。当市の地形は明石海峡大橋が阪神間からの玄関口になっているものの、中央に魚の背骨のように山が連なっており、まさに東浦と西浦

に街が分断されている形となっております。旧町時代の各町の活動方針が色々であったため、「合併にはかなりの問題があるのではないかと心配しておりましたが、各種団体の合併の中で消防団が問題なくスムーズに早く合併できたことを本部三役喜んでいて次第であります。

今問題になりつつある、団員の後継者不足が気になる所であり、団員が多すぎる分団もあるものの、総じて不足している状態が続いております。

私は、旧津名町時代の伝統として「町に住む若者全員に消防団の経験をさせよう」と言う先輩達の町に対する思いがあったためか、「いつまでも消防にいらると若い後輩が入ってこない」と思い、二四才の時入団し、三五才の時十一年間勤めて退団しました。

しかし、その二〇年後の平成十五年四月要請を受けて津名町消防団副団長として再入団し、淡路市に合併して現在に至っている現状であります。二〇年のプランクがあるとうしても号令のかけ方や各行事のやり方進め方も変わっており、恥をかきながら他地区の人々に教えてもらいながらやっております。

この体験から昔と違って団員の後継者が少なくなってきたおり、もう少し長く勤めて後継者を育てて伝統を守っていくべきではないかと個人的に感じる次第であります。

何はともあれ私も含め幼少の時は他の先輩達が消防団として地域を守ってくれたお陰で現在まで安心して無事に過ごして来ました。

消防団今昔

45

「二〇年の財産」

福崎町消防団団長
藤木 一成



福崎町消防団は、兵庫県の中央部よりやや南側に位置し、播磨平野の西部の一角を占めています。周辺の多くを緑の山に囲まれ、東は加西市、西と南は姫路市に、北は市川町にそれぞれ隣接し、総面積は四五、八二

㎡となっております。また、中国縦貫自動車道と播但連絡道路が町のやや南側の中央部で交差し、「福崎インターチェンジ」をもつ広域的な交通の要衝地でもあります。人口一九、九五八人（平成十九年一〇月末現在）の生命と財産を守っております。

消防団組織としては、三三二分団、六〇〇名の団員で構成され、スピードと格段の能力を兼ね備えた消防施設も充実し、小型動力ポンプ付積載車三〇台（軽十七台・普通車十三台）、小型動力ポンプ五台、ポンプ自動車三台を配備し、有事の際の出勤に備えています。

私が消防団に入団したのは二〇年前の二〇歳のときでした。

に喜んでもらえたこと、災害・火事で危険な状態であったこと、旅行での楽しかった思い出等」

いついつまでも話し合うことができ、本当に一挙両得の消防団。是非若者の皆さんにも入団して経験していただきたい。

私自身自分の任期中地域の安全・安心を守ってくれる団員にエールを送り、尚一層活動に力を入れてまいります。

その御礼返しに消防団に身を投じ、この任務を後世に伝えて行くことの繰り返しで地域が守られ尚和が広がっていきます。

退団しても同僚と「地域の人

今思えば、この二〇年間で走馬燈のように蘇ってきます。当時は、村の分団から勧誘を受ければ入団しなくては行けない雰囲気でしたので、何の疑いもなく入団しました。

訳も分からず入団しましたが、次第に消防団の存在意義や使命が見えだし、地域社会や地域の人たちに貢献する喜びを知りました。また操法大会に向けての苦しい訓練などを通じて郷土を想う気持ち、苦しみを共有した仲間を想う気持ち、消防精神を育み、今の私の消防団活動の土台となっていることは否めません。そして消防団のもう一つの楽しみとして、普段、会うことのない同級生や懐かしい面々と

地区通信

「地域を守る」

豊岡市但東消防団

平成十七年四月に合併した「豊岡市」には、豊岡消防団・城崎消防団・竹野消防団・日高消防団・出石消防団・但東消防団の六団があります。

但東消防団は、但東地域約一六二戸を担当する七分団・定数二五四名の組織です。

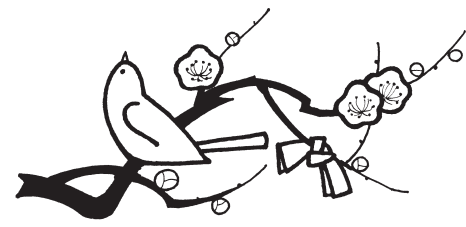
毎年、夏期訓練・操法大会・防火デー訓練の各訓練を実施し、団員の士気の啓発、技術の向上、住民への防火意識の高揚を図っています。

夏期訓練は、毎年課題を決め、水防訓練、山火事を想定した中継放水訓練等を実施しています。平成十九年度は、七分団の団員が、消防ポンプ自動車を使用し

た中継放水訓練を豊岡消防署出石分署但東駐在所署員の指導で実施しました。特に今回は、水利の離れた山林火災時等の消火活動の技術高揚を図るため、中継放水の調整及びポンプ車間の伝達を中心に実戦訓練を行いました。

最後に消防団活動を行う上で、なくてはならないものは地域の理解と協力です。地域の理解と協力があからこそ今の福崎町消防団が活発に活動できる大きな支えとなっております。

私もあと三ヶ月余りで二〇年間の消防団活動に幕を降ろします。この二〇年間で得た多くの仲間と経験は、これからの私の人生において大きな財産であると確信しています。



シルク温泉やまびこ



モンゴル博物館

「こんにちは！ひょうごの消防団です」



http://www.hyogoshoubou.jp/

編集後記

新年明けましておめでとうございませう。

さて、今月号では各団体代表者の年頭のあいさつを掲載しております。また、消防団今昔には淡路市消防団副団長向内良夫さん、福崎町消防団団長藤木一成さんより寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

新しい年を迎え、気持ちも新たに活動されていることと思っております。

本年も「兵庫消防」をこ愛読のほどよろしくお願ひします。



操法大会